

非同期型動画教材を活用した 基礎看護技術の教育方法の検討

香川里美*, 徳永なみじ*, 野本百合子*, 北川恵*,
谷本淳子*, 森敬子*, 大野祐子*, 岡田ルリ子**

Evaluation of Educational Method for Basic Nursing Skills Using Asynchronous Video Materials

Satomi KAGAWA*, Namiji TOKUNAGA*,
Yuriko NOMOTO*, Megumi KITAGAWA*,
Junko TANIMOTO*, Keiko MORI*,
Yuko OHNO*, Ruriko OKADA**

Keywords: 基礎看護技術教育, 非同期型動画教材, 技術演習, 教育方法

序 文

近年, 急激に普及しているブレンディッド・ラーニングは, 「従来の対面講義式授業にオンライン学習を組み込んだ学習法」¹⁾であり, 学習の主導権が学習者にあるため, オンライン学習の動機となる「調べる力」を育む効果がある²⁾とされる。A大学看護学科においても, 自ら主体的に学ぶ看護職者の養成を目指し, 情報通信技術 (Information and Communication Technology; 以下ICT) を活用している。

ICTを技術教育に活用した先行研究には, 実習へのICT活用の効果³⁾, オンライン大学における自己調整学習方略導入⁴⁾の報告, 看護継続教育によく用いられるナースング・スキルTM⁵⁾やe-ラーニングシステム⁶⁾, シナリオ学習教材⁷⁾などを用いた, 対面授業にオンライン学習を加えたブレンディッド・ラーニングに関する報告などがあった。これらの文献は, ICTを活用した授業の有効性を示しており, その導入は, 効果的な授業の展開につながると考えられる。

2020年1月に, わが国でも新型コロナウイルス感染症 (以

下, COVID-19) が確認され, その拡大により, 教育現場は一時的に対面授業が中止され, 授業展開方法の見直しを余儀なくされた。徐々に制限は緩和され, A大学看護学科においても, 2020年6月から密集・密閉・密接の「3密」を回避した環境下での対面授業を開始した。基礎看護技術演習では, 身体接触を避けられないため, 一度に収容する学生数を縮小した授業の展開を検討せざるを得なかった。この出来事を契機に, 効果的な技術演習の展開方法を検討し, ICTを活用した授業展開, すなわち「非同期型動画教材を活用した基礎看護技術の教育方法」に取り組んだ。そこで, 今回は, この取り組みが, 学生の技術演習での学習にどのような効果をもたらしたかを明らかにすることを目的に, 取り組みに対する学生からの評価を調査し, 今後の技術演習のあり方を検討することとした。COVID-19禍以降, 新たに作成した非同期型動画教材を活用した教育方法による効果を明らかにすることができれば, 今後のより質の高い技術教育の実現に活用できる基礎資料となる。

*愛媛県立医療技術大学保健科学部看護学科

**聖カタリナ大学看護学部看護学科

*1 ナースング・スキルTM: エルゼビア社が提供する看護手順を確認・習得するための日本語版オンラインツール

目 的

本研究は、対面授業の制限に伴う基礎看護技術学習に非同期型動画教材を活用した教育方法に対する学生の「役立ち感」と「学びやすさ」から、その効果と今後の改善点を検討することを目的とする。

方 法

1. 授業展開の改善

1) 対象学生と科目の位置づけ

対象学生は、2020年度A大学看護学科1年生75名(男性4名、女性71名)である。改善した科目は1年次後期の必修科目「生活援助技術論Ⅱ」で、8つの単元から構成される。対象学生は、1年次前期に「基本援助技術論」(コミュニケーション技術や療養環境調整技術等、看護を提供する際に共通する技術を学習する科目)、「生活援助技術論Ⅰ」(動く・食べる機能のアセスメントおよび援助技術を学習する科目)の基礎看護技術に関する科目を学習している。

2) 従来の教育方法と改善内容

(1) 従来の教育方法と改善の要点

COVID-19禍以前は、対面による講義と演習を行い、演習の始めに教員のデモンストレーション(以下、教員デモ)を行った後、各グループでの演習を行っていた。学生は、教員デモを見学後すぐにグループ学習に取り掛かるものの、説明したポイントを明確には覚えていない学生が少なくない現状であった。その要因として、グループ演習の直前に教員デモを実施するというタイミングは、自身の体験に基づいた疑問を持つ段階がないために、自ら学ぶという学習姿勢につながりにくく、受け身の技術演習になりやすいという問題が予測された。

また、演習で実施する看護技術のイメージ化が図れるように、教科書・参考書等の図書その他、有料のWebコンテンツであるナース・スキルTMを活用した授業前学習を設けていた。ナース・スキルTMは、多くの施設で看護継続教育に活用されており、基本的な手順だけでなく、根拠や留意点などの解説があり、自学自習に役立てられる教材となっているため、看護基礎教育においても有用な教材である。一方で、主に看護継続教育で活用されているため、基礎的な技術が一部省略されていることがあり、初学者が手順を踏んで実施しようとした場合、他の教材から補う必要があるなど一連

の動作をイメージ化しにくいことから、主体的な学習姿勢に結び付きにくいことが考えられた。

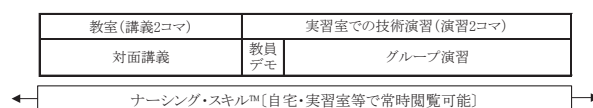
そこで、COVID-19禍でのICTを活用した学生の能動的な学習につながる授業方法として、講義動画の作成と共に、教員による非同期型の自作デモンストレーション動画(以下、デモ動画)を作成し、事前学習に活用することとした。また、教員からの技術指導を、グループ演習の間に挟むとともに、学生を2班に分割した演習形態にし、感染伝播予防対策の環境下での学生の主体性を考えた授業展開とした。

(2) 講義動画・デモ動画の非同期型動画教材の作成

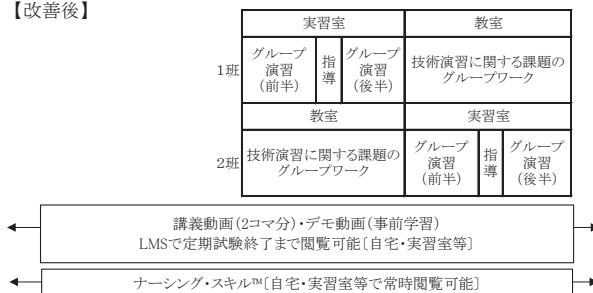
講義動画は、当該科目を構成する8単元すべてについて作成し、対面の講義はすべて講義動画に置き換えた。双方向性を確保するため、スライド内に理解度を確認するための問題を設け、大学専用システム(以下、LMS^{*)})内で問題に解答したり、質問や意見の提出を求めたりした。

デモ動画は、技術演習を取り入れていない「観察・記録・報告技術」を除く7単元のうち、ナース・スキルTMの動画教材だけではイメージ化しにくいと思われた、「排泄援助技術」、「清潔・衣生活援助技術」、「経管栄養」、「活動・休息援助技術」の4単元について作成した。実際の技術演習がイメージしやすいようにA大学の基礎看護学実習室で撮影し、物品も学生が演習で使用するものを用いた。物品の取り扱い方等の細かな手技は、見えやすい角度や距離を考慮して撮影した。

【改善前】



【改善後】



LMS : Learning Management System

図1 改善前と改善後の講義・演習展開の一例

*2 大学専用システム:Moodle利用によるA大学学生用に開発された学習管理システム; Learning Management System

講義動画とデモ動画は、授業開始1～2週間前からLMSに掲載し、視聴期間は、予習復習の際の教材として使えるよう、授業開始前の一定期間だけでなく、定期試験終了時まで可能とした。

(3) 技術演習の進め方と学生収容数の縮小(図1)

学生がデモ動画で事前に学習していることを前提に、演習開始時の教員デモは行わず、直ちにグループ演習を開始した。学習者が能動的に学びを習得するためには、最初に、学習内容の応用場面を示してから学生に挑戦させ、その後例示することが効果的⁸⁾とされる。学生は、看護師役割経験が1～2人終了した頃に疑問点やうまくいかない箇所が明確になることが多いため、3人目が看護師役割をとるまでの間となる演習中盤に教員の技術指導を挟むとともに、各单元の中核となる学習内容の理解状況も確認した。

学生収容数の縮小方法は、改善前は1グループ3～4人が1台のベッドを使用し、20グループで実施していたが、一人の患者に看護師役割が2名必要な技術の場合は、グループの人数は変更せずグループ数を半分の10グループにした。また、患者・看護師役割が各1名で実施できる技術では各グループの人数を半分の2人にした。各グループの学生の役割は3～4人グループの場合は、患者、看護師、観察者(1～2名)とし、2人グループの場合は、患者が観察者を兼ねるようにした。いずれの場合も2班での交代制としたため、学生個々の演習時間は従来の半分となるが、演習を実施していない間はグループワーク等の課題を設け、演習時間の減少による影響を最小限にし、学習内容の質が低下しないように授業を構成した。

2. 非同期型動画教材の学習への「役立ち感」と、演習時のグループの人数による「学びやすさ」

1) 調査期間

2021年1月

2) 調査方法

無記名自記式の自作質問紙を用いた。質問項目は、授業に用いた講義動画、デモ動画、ナーシング・スキルTMが学習に役立ったかどうか(以下、役立ち感)、またその理由、演習時の学習しやすいグループ人数とその理由、演習の進め方に関する自由意見の計9項目とした。「役立ち感」は「大変役立った:6点」から「全く役立たなかった:1点」の選択回答式質問、演習時の学習しやすいグループの人数は、「2人」または「全員(4人または3人)」の2択回答式質問、それぞれの理由は自由回答式質問とした。質問紙は、「生活援助技術論II」最終回の授業終了後に配布し、指定した場所に回収箱を1週間設置して留め置き法にて回収した。

3) 分析方法

選択回答式質問については、記述統計を用いて分析した。各設問の回答理由と演習の進め方に関する自由回答式質問への回答は、データを熟読し、素データから質問に対する回答を抽出して要約したコードを意味内容の類似性に基

づき分類し、カテゴリを形成した。分析に当たっては、すべての段階において研究者間で十分に吟味し、分析の妥当性を確保した。

4) 倫理的配慮

対象学生には、研究の趣旨とともに、研究への参加は自由意思であり、協力の可否や記入内容による成績への影響はないこと、プライバシーの保護、匿名性と機密の保持、データの厳密な管理方法、結果の公表先などについて文書と口頭で説明し、質問紙の提出をもって研究協力への同意を得たものとした。なお、本研究は、愛媛県立医療技術大学研究倫理審査委員会の承認を受けた後に実施した(承認番号20-012)。

結 果

回収できた質問紙65部(回収率86.7%)すべてを分析対象とした。自由記述のうち、明確に回答した理由であると判断できないものは除外した。以下、本文中の【】は自由記述の分析結果のカテゴリ、『』はサブカテゴリを示す。

1. 非同期型動画教材に対する学生評価(表1, 表2)

講義動画の学習への「役立ち感」の評価得点は、平均5.20(SD=0.67)点であった。「役立ち感」の回答理由として、【繰り返し見直すことができる】、【動画内容が理解しやすく技術に役立つ】、【対面型の方が効果的】の3カテゴリが形成された。

デモ動画の学習への「役立ち感」の評価得点は、平均5.43(SD=0.69)点であった。「役立ち感」の回答理由として、【実際の演習内容が効果的に映像化されているので理解しやすい】、【実際の演習通りの方法、環境・物品が使われているので理解しやすい】等、5カテゴリが形成された。

ナーシング・スキルTMの学習への「役立ち感」の評価得点は、平均5.47(SD=0.62)点であった。「役立ち感」の回答理由として、【手順のコンテンツから根拠や注意点が学べた】、【映像を見ることで技術の流れがイメージできる】等、5カテゴリが形成された。

表1 非同期型動画教材の学習への「役立ち感」の学生評価

教材の種類	n=65				
	大変役立った	役立った	少し役立った	あまり役立たなかった	無回答
講義動画	21	37	6	1	0
デモ動画	33	25	4	1	2
ナーシング・スキル TM	34	26	4	0	1

表2 非同期型動画教材の学習への「役立ち感」の回答理由

教材の種類	カテゴリ	サブカテゴリ
講義動画 n=60	繰り返し見直すことができる	試験前に見直すことができる 繰り返し見直すことができる 一時停止できるため聞き逃しなく、メモがとれる
	動画内容が理解しやすく技術に役立つ	図表やイラストがあり、理解しやすい 要点がわかりやすく、まとめてあり、学習に役立つ 教科書にないことや理解しづらいことが学習できる
	対面型の方が効果的	対面授業の方が記憶に残りやすく、実際にわかりやすい
デモ動画 n=53	実際の演習内容が効果的に映像化されているので理解しやすい	実際の内容がイメージしやすい ポイントを解説しながらの演示なのでわかりやすい 見えやすい角度から手技を撮影していたのでわかりやすい
	実際の演習通りの方法、環境・物品が使われているので理解しやすい	演習で使う道具が使われておりわかりやすい 演習する環境での動画であるためわかりやすい 演習通りの動画であるためわかりやすい
	ナーシングスキルに比べて実際の演習に活用しやすい	ナーシングスキルにはない情報が掲載されていた 応用できる方法を見つけるのに役立った
	繰り返し見直すことができ、事前学習に役立つ	動画を見直し、繰り返し学習できる 演習時に役立った
	動画の質の改善や複数パターンの動画を作成して欲しい	動画の質やスムーズな視聴ができないことが気になった 1人で援助する場合の動画も見なかった
ナーシング・スキル™ n=55	手順のコンテンツから根拠や注意点が学べた	手順のコンテンツから根拠や注意点が学べた 映像や手順のコンテンツから手順を確認できた 小テストのコンテンツで、知識の確認が行えた
	映像を見ることで技術の流れがイメージできる	映像を見ることでイメージしやすかった 映像が見られて役立った 技術の流れを見ることができた
	予習復習に役立つ	事前課題をする時に役立った 復習する時に役立った
	何度も見直すことができ、繰り返し学習できた	何度も見直すことができ、繰り返し学習できた 映像が短時間で再生しやすく、動きを覚えられた
	細かい部分が省略され、わかりにくい	細かい部分が省略されていたり見えにくかった所があった 内容が薄かったり、欲しい説明がない部分があった

表3 演習時の学習しやすいグループ人数の回答理由

グループ人数	カテゴリ	サブカテゴリ
2人 n=39	演習に費やせる時間が多く集中できる	全員だと自分の演習時間が足りないことがある 看護師役に時間をかけられる
	グループメンバーとのコミュニケーションがとりやすく理解を深められる	メンバーとのコミュニケーションを取りやすく意見がまとまりやすい メンバーと確認し合いながらやれるので、理解を深められる
	教員に質問しやすくアドバイスを受けやすい	人数が少ない分、細かいアドバイスを受けることができ、学ぶことが多い 少人数の方が先生に質問しやすい
	学生自身が主体的になれる	誰かに頼ることもなく自ら考えられるようになるから 4人だと何もせず見るだけの人ができてしまい学びに差が出る
	スペースを広く使える	4人だと狭く動きにくい。ベッドを広く使いたい
全員 (4 or 3人) n=14	様々な意見があり多くの知識を吸収でき成長できる	メンバーの様々な意見があり多くの知識を吸収することができる 周りからのアドバイスが多くて成長できた
	客観的に見れることが自分の技術のイメージづくりに役立つ	他の人がしているのを見ることが自分の技術のイメージづくりに役立つ 演習の内容を客観的に見れた 多いと安心する
	メンバー個人の役割の負担が少ない	グループ課題の役割分担ができ、一人の負担が少ない 準備や片づけがはやくなる

表4 技術演習の進め方に関する自由意見

		n=31	
カテゴリー		サブカテゴリー	
肯定的意見	根拠や注意点等に焦点化された課題はイメージ化しやすかった	注意点等に焦点化された課題はイメージが湧きやすかった課題が学習に役立った	
	課題の量は適切	課題は、技術を磨き理解を深めるために適切な量であった	
	提出期限は適切	2週間先の演習課題を配布してくれたのがありがたかった課題等の提出期限は適切だった	
	コロナ禍でも学習できる対応をしてもらえた	コロナ禍でも授業の質が落ちず、他大学と比較しても多くのことを教えてもらったコロナ禍にもかかわらず、教員の対応が速く素晴らしい	
授業への要望	課題提出までの期間が短い	提出までの期間が短く負担だった 課題を出すタイミングを早くしてほしい 課題に十分な時間をかけられなかった 授業動画を2倍速で視聴できるようにしてほしい 課題を休業期間中に出してほしい	
	課題の量が多い	課題の量が多かった 課題の量が多く、課題以外のことに時間が割けなかった 課題の量が多く、理解が不十分な部分が多かった	
	授業スケジュールが過密	他の科目や課題と重複することがあり負担だった 授業スケジュールが慌ただしかった	
	学習への支援がもっと欲しい	提出後に解答を配布してほしい 事前学習のための図書を推薦してほしい 授業動画が視聴できているか確認できず不安だった	
	課題の内容が難しい	課題の問いが分かりにくいことがあった 根拠となる内容を参考書等から見つけることが難しかった	

2. 学生を2班に分割した演習方法に対する学生評価(表3)

演習時に学習しやすかったグループの人数は、「2人」が44名(67.7%),「全員(4人または3人)」が20名(30.8%),無回答1名であった。「2人」を選択した理由の記述内容をカテゴリ化した結果,【演習に費やせる時間が多く集中できる】、【グループメンバーとのコミュニケーションがとりやすく理解を深められる】等,5カテゴリが形成された。一方,「全員(4人または3人)」を選択した理由からは,【様々な意見があり多くの知識を吸収でき成長できる】、【客観的に見られることが自分の技術のイメージづくりに役立つ】等,3カテゴリが形成された。

3. 技術演習の進め方に関する自由意見(表4)

学生31名から,技術演習の進め方に関する自由意見があった。その内容は,技術演習の進め方に対する「肯定的意見」と,「授業への要望」に分類できた。

「肯定的な意見」として,【根拠や注意点等に焦点化された課題はイメージ化しやすかった】、【課題の量は適切】等の4カテゴリ,「授業への要望」として,【課題提出までの期間が短い】、【課題の量が多い】等の5カテゴリが形成された。

考 察

1. 非同期型動画教材の学習への「役立ち感」

今回活用した非同期型動画教材に対する学生評価は,

講義動画,デモ動画,ナーシング・スキル™のすべてにおいて6点満点のうち平均5点以上の高得点であり,いずれも学習に効果的であると感じていることが明らかとなった。非同期型動画教材は時間や場所を問わず何度でも視聴できるという利点がある。学生は,『繰り返し見直すことができる』ことや,教科書には載っていない『図表やイラストがあり,理解しやすい』こと,さらに,『試験前に見直すことができる』こと等,反復学習や予習復習ができ,技術の習得だけでなく,試験に備えた学習にも役立つと感じていることが示された。

特に今回の研究対象となった1年生は,どの単元の演習においても用いられる物品のほとんどが初見であり,その使い方や留意点等の理解に時間を要していた。しかし,デモ動画は,学生が使用するものと同じものを用い,基礎的な技術であっても,ポイントとなる内容を省略せず,教員の手元の技も見えるように撮影した。そのため,【実際の演習通りの方法,環境・物品が使われている】ことや【実際の演習内容が効果的に映像化されている】等,学生が演習をイメージすることにつながり,技術の学習に役立ったと考えられる。

一方,ナーシング・スキル™のコンテンツには,手順や根拠の説明だけでなく,テスト機能があるため,知識の習得に効果的であったと考えられる。しかし,『細かい部分が省略されていたり見えにくかった部分があった』等,初学者にとって極めて必要,かつ重要な基礎的部分が示されていなかったり,やや難しい内容を含んでいたと考えられる。ナーシング・スキル™は技術全体を学ぶには非常に有効な教材であるが,1

年生にはイメージしにくい部分があるため、1年生のレディネスに合わせたデモ動画や講義動画といった教材を追加することで、ナーシング・スキルTMでの学習内容を補うことができると考える。

本研究で実施した授業方法は、講義と教員デモを、対面から非同期型動画教材に移行し、学習の一部をオンライン化するブレンディッド・ラーニングの形をとった。非同期型動画教材は、学習する時間、場所、方法等、学習の主導権が学生にあるため、対面授業の予習・復習のための時間外の学生の学習活動を促進できる⁶⁾とされ、従来と比較して時間に制限があった授業においても、技術の学習に効果的だと感じる学生が多かったと考える。

一部の学生からは『対面授業の方が記憶に残りやすく、実際がわかりやすい』という意見があった。動画教材であっても、講義から学ぶためには、教材との相互作用を探りながら鋭い精神集中、粘り強さ、思慮深さが必要⁹⁾とされる。本研究で活用した講義動画には、動画内に理解を確認するための問題を設けたり、質問・意見の提出を求めたりしたが、集中力の回復や学習内容の理解を強化するには限界があった可能性がある。今後は、学生が集中して視聴でき、記憶に残りやすい講義動画の作成や、動画の収録時間の調整等の検討が必要である。

2. 演習時のグループの人数による「学びやすさ」

演習時の学習しやすいグループの人数は、「2人」を支持する者が7割近くいた。2人の場合は、【学生自身が主体的になれる】ことや、『看護師役に時間をかけられる』、少人数の方が『メンバーと確認し合いながらやれるので、理解を深められる』と考えていた。少人数での学習は、1人ひとりの出番・活躍の場が、それまで以上に保証されるため、メンバー同士のかかわりが濃密になり、協同的な学びがより成立する¹⁰⁾とされる。「2人」を支持する学生は、事前学習の成果を発揮する機会となる看護師役割の時間がより長い方が学びやすいと感じ、技術を実施する時間の確保を望んでいると読み取ることができる。

また、『少人数の方が先生に質問しやすい』、『人数が少ない分、細かいアドバイスを受けることができ、学ぶことが多い』と考えていた。少人数の場合は、各学生に対する技術指導の時間が多く確保できるため、演習中に明確になった疑問や技術のコツ等について相談しやすい環境にあり、疑問が解決しやすかったことも、「2人」を支持する要因になったと推察する。

一方、「全員（4人または3人）」の場合の学生の役割には、患者、看護師の他、観察者の学生が存在する。学生は、『周りからのアドバイスが多くて成長できた』、『他の人がしているのを見ることが自分の技術のイメージづくりに役立つ』等、観察者の役割を有効に活用し、看護師役の学生の技術を観察して自己の技術のイメージづくりをしたり、自分には思いつかなかった多様な意見に触れたりすることで新たな気づき

が生まれ、多角的な見方や柔軟な思考を獲得できたことが推察できる。

2人の場合は、体験できる時間を多く確保できるが、多様な意見に触れることによる新たな気づきには繋がりにくい。グループの人数が2人の場合でも、他のメンバーとの意見交換や観察に徹することができる機会の検討とともに、対面授業の制限がある中でも、学生の疑問が明確になったタイミングでの指導の機会が確保できる工夫が必要であることが示唆された。

3. 非同期型動画教材を活用した教育方法の検討

技術演習の進め方に関する自由意見には、課題に関する意見が多かった。肯定的な意見では、『注意点等に焦点化された課題はイメージが湧きやすかった』、『根拠について記載するレポートがよかった』等、事前学習の内容が、根拠の理解やイメージ化につながったとの意見が多く挙げられていた。学生は、非同期型動画教材の「役立ち感」の理由に、『教科書にないことや理解しづらいことが学習できる』ことや『手順のコンテンツから根拠や注意点が学べた』ことを挙げている。これらの意見から、ナーシング・スキルTMや講義動画にある、技術の根拠や留意点の解説を事前学習に活用していたことが読み取れ、非同期型動画教材が技術のイメージ化や理解に結びつきやすかったと考える。

一方、授業の要望に関する意見には、課題提出までの期間の短さや量的負担に関する意見が多くみられた。課題の提示は、学習効果低下の対策の一つであったが、動画の視聴や根拠・留意点の整理など、演習の前提となる知識の学習が課外の時間となることに負担を感じていた。水澤¹¹⁾は、学生は考えられる力を十分に持っており、それまでに学んだ内容の活用方法は学生自身に考えさせる必要があると述べている。したがって、学生が得た知識を使って考える時間が確保できるよう、課題の内容は、単元の中核となる内容に厳選し、課題の量と質を調整する必要があると考える。

今回、対面での教員デモを廃止し、デモ動画を視聴した上で演習を実施する授業展開に改善した。この方法は、学生がやってみて、沸き上がった疑問をもとに教員が指導することとなった。日黒¹²⁾は、演習開始時の教員デモは見えても記憶に残らないが、「まずはやってみる」ところから始まる技術演習では、試行錯誤の繰り返しの中で生じる、知りたいという「切実感」が生じ、積極的なまなざしが生まれると述べている。つまり、教員からの指導やメンバーの意見を聞きたいという希望は、学生の「切実感」から生じたものとも考えられる。さらに、事前課題として提示した非同期型動画教材は、能動的な学ぶ姿勢につながり、効果的であったことが示唆された。

4. 今後の課題

今回作成したデモ動画では、実際の技術演習をイメージできるように基礎実習室において、演習で使用する物品を用

い、細かな手技が見えやすい角度や距離等、技術のリアリティを考慮して撮影した。学生は、『実際の内容がイメージしやすい』『演習で使う道具が使われておりわかりやすい』等、デモ動画の教材から、演習技術をリアルに感じられたと考えられる。

また、水戸¹³⁾は、看護学を学び始めた学生に看護を学び続けるための動機付けを行うには、複雑さを抑え、できるだけ単純化して伝えることが大切であると述べている。今後は、時間の制限がある中でも学生自身の考える力を育てられるよう、その技術の核となる教える内容の精選を行い、よりシンプルに、かつリアリティを伝える工夫が重要である。さらに、記憶に残りやすい講義動画、演習時の教員との交流の時間の確保、学生が自ら学ぼうとする課題の工夫の検討が必要である。

引 用 文 献

- 1) Michael B.Horn, Heather Staker (2015) : BLENDED Using Disruptive Innovation to Improve Schools.2020 ; 小松健司訳：ブレンディッド・ラーニングの衝撃、287, 教育開発研究所
- 2) 前掲書 1), 86.
- 3) 齋藤美紀子, 木村千代子, 其田貴美枝, 他 (2020) : 看護学実習における情報通信技術 (ICT) 活用の効果と課題-タブレット端末による電子教科書導入の試み. 青森中央学院大学研究紀要, 33, 85-92.
- 4) 石川奈保子, 向後千春 (2018) : オンライン大学で学ぶ学生の自己調整学習方略およびつまづき対処方略. 日本教育工学会論文誌 41(4), 329-343.
- 5) 小川明佳・大谷則子 (2020) : e-learning を活用した環境調整技術の学習支援に関する一考察-ベッドメーカー技術に焦点を当てて. 和洋女子大学紀要, 61, 25-34.
- 6) 吉川千鶴子・中嶋恵美子・須崎しのぶ (2012) : 看護技術教育のブレンディッドラーニングにおける e ラーニングシステム活用に関する研究. 日本看護研究学会雑誌, 35 (5), 105-115.
- 7) 堅田智香子, 彦聖美, 村井嘉子, 他 (2012) : 看護基礎教育における教育方法の検討—シナリオ学習教材の活用評価より. 石川看護雑誌, 9, 43-51.
- 8) 鈴木克明・美馬のゆり (2018) : 実践に役立つ学びにする. 学習設計マニュアル. 159-161, 北大路書房
- 9) Linda B. Nilson (2013) : CREATING SELF-REGULATED LEARNERS Strategies to Strengthen Students' Self-Awareness and Learning Skills.2018 ; 美馬のゆり, 伊藤崇達訳 : 学生を自己調整学習者に育てる—アクティブラーニングのその先へ, 51, 北大路書房
- 10) 松浦善満, 梅本優子, 西村充司 (2009) : 少人数教

育の「教育効果」とカリキュラム開発に関する研究(1), 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 19, 127-133.

- 11) 水澤晴代 (2013) : 基礎看護学担当教員が「本当」にやらなければならないこと. 看護教育, 54(2), 90-94.
- 12) 日黒悟 (2011) : 臨場感・切実感が「演習」を変える. 看護教育を創る授業デザイナー—教えることの基本となるもの. 116-125, メヂカルフレンド社
- 13) 水戸優子 (2013) : 「基礎看護学」において初めて看護に接する学生に伝えることとは. 看護教育, 54(2), 76-82.

要 旨

本研究の目的は、基礎看護技術学習に非同期型動画教材を活用した授業に対する学生評価から、その効果と今後の改善点を検討することである。

COVID-19 禍の対面授業の制限に伴い、基礎看護技術の科目では、従来からのナースিং・スキル™に加え、非同期型の講義動画と看護技術の動画を作成した。講義および演習開始時の教員デモンストレーションを自作動画に置き換え、技術指導をグループ演習の間に挟む授業展開に改善した。演習グループの人数は、各グループで半分にした「2人」と、グループ数を半分にした「全員」の2通りで行った。学生評価には、非同期型動画教材の学習への「役立ち感」と、グループ人数による「学びやすさ」の自記式質問紙調査を行った。

調査の結果、動画教材すべてに「役立ち感」が高く、その理由は、繰り返し見直すことができる等、技術のイメージ化や予習復習ができることであった。グループ人数による「学びやすさ」は、個人の演習時間や指導の確保ができる等の理由から「2人」が多かった。「2人」の場合、多様な意見からの新たな気づきは得にくいと、他のグループメンバーとの意見交換や観察ができる工夫が必要であることが示唆された。

謝 辞

本学の教育改善のために研究にご協力いただきました学生の皆様に心から感謝申し上げます。

利 益 相 反

本報告には利益相反に該当する事項はない。